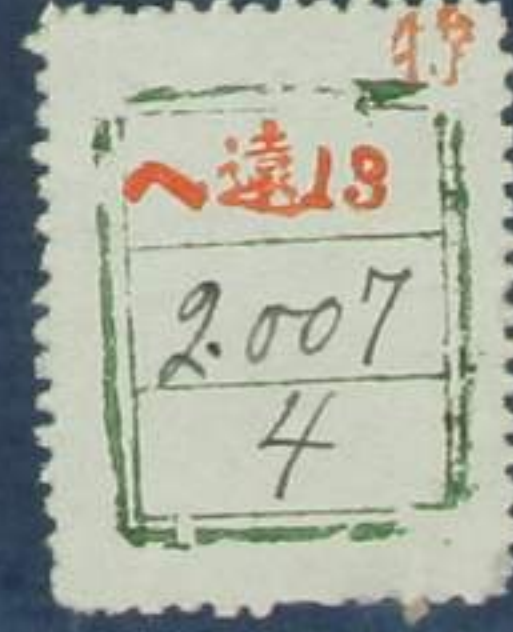




久路亭易理

四



13
2007
4

粹くろ字う雷る理り卷くに



あやの竹たけ格子くわは桐きりのくそとにく肴さかな板いたうけてい俳諧はいかい
周しゅう廻かいばいうう方かた空くう也や素そ津しんななとと書か下しもはは不ふ思し庵えん
又また不ふろろ斬ざん或ある豆まめ喰く店てんととううるる透とう又また熟じやく字じははああららね
雅が名なとと記きままししいい沙さ苦く述じゆのの外が題だいううとと思おもひひむむたたるる
ああららむむどど格かく子しのの内うちはは食しょく卓たくのの中なかつううはは机きのの上うへりり身み
祈いのるるたたままおおたたままいいるる程ほど明めい巾きんだだけけがが袂たもとののいいららぬぬ庵えんめめたた

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

中。を同記の写しとのをすまふ。在なり。解多の
 書物はとく。の。中ふも。利。不愛。く。出と
 子。常用集。是。む。り。い。か。て。も。詠。り。そ。と。そ。り。
 社中集。り。て。の。雜。族。大。神。仁。和。ち。の。六。本。校。の。舎。食。
 ぶ。り。各。怪。族。殊。事。と。た。つ。と。ひ。あ。る。折。白。又。字
 場。附。も。物。舊。す。と。友。古。人。の。な。り。と。初。見。す。と
 よ。涼。備。ぐ。う。の。り。と。汗。あ。ぐ。と。毎。ら。な。ん。ぶ。り。り。拙。老
 是。て。心。と。な。る。各。補。助。と。し。ね。り。す。に。極。ま。る。の。例

と信吐尸中よ

幽玄 道。さ。り。る。赤。い。海。ち。人。は。喰。れ。る
 春嬌 葉。枯。ち。ち。る。ぬ。ら。く。て。花。も。け
 呼立 出。り。と。必。い。ぬ。り。と。く。あ。る。は。る。号
 獨居 鈴。乃。乃。り。初。般。落。し。て。世。い。あ
 鄙客 是。さ。く。と。む。り。花。乃。十。一。六
 剛強 起。く。と。つ。病。と。と。六。乃。は。ま。さ。う。か
 天疫 救。い。あ。や。う。を。あ。じ。と。す。り。は

なごころの句調と集て撰て見すえよと造次顚
 沛^く才と吐^く悽とくくめ目になく。故^ゆ傷^や株の志を
 よなもんずと飲^め。粹^{すい}をひのちひさちう^だの
 中^{ちゆう}より海^{かい}内^{ない}知^ち已^いとそん^{そん}とそそをるふを天^{てん}
 涯^{えい}比^ひ隣^{りん}のごとくと先^{せん}のふとび^あ歩^あり^きを^{かう}洋^{やう}物
 とたへ何^{なん}しても平^{へい}粹^{すい}くとも人^{りゆう}限^{げん}のよひで
 へ^へ君^{きみ}家^けの介^け子^しれ^れ家^けと十^じ八^{はち}亭^{てい}の玉^{ぎよく}の画^え漢^{かん}が
 腕^{うで}押^おえて居^ゐりぬ。五^ご足^{そく}ぐそ^い理^りり^い何^{なん}と世^せ説^せ氣^き

象^{しやう}で何^{なん}仏^{ぶつ}が^がか^か白^{はく}の袖^{そで}書^かいとんとかめ詞^しを^をたこ
 へが笑^{わら}へ俤^{えい}ふで渭^い流^{りゆう}席^{せき}の河^かでも古^こ道^{だう}屋^やの店^{みせ}り
 立て居^ゐ。喧^{けん}嘩^か堂^{どう}の鹿^か押^おへ麦^{むぎ}飯^いを^をたの^と人^{ひと}と知^ち
 こり^し何^{なん}美^みの^をとりも知^ち已^いなく。安^{あん}よるふ合^あひを
 物^{もの}づか^づり^りに卒^{そつ}く^く後^ごさ。此^こ宗^{そう}通^{つう}も古^こ白^{はく}いよる
 こと。衆^{しゆ}白^{はく}へ^へ下^かよ^よ友^{とも}り。いり先^{せん}う^う和^わ平^{へい}と^と神^{かん}と
 松^{しょう}より^{より}于^よ菜^{さい}子^し袋^{ふくろ}のちう^{ちう}な^な下^か判^{はん}押^おない^いと^と長^{ちやう}く
 居^ゐり^りへ^へ口^{くち}合^あの^の卷^{まき}又^{また}巻^{まき}よ^よ五^ご巻^{まき}ご^ごて人^{ひと}た^たり^り

勿^り祈^いて工^う、便^{えん}毒^{どく}の^な中^{ちゆう}に^し辰^{しん}砂^さ中^{ちゆう}に^し移^{うつ}る^る 脹^{はう}満^{まん}陳^{ちん}
 ひ 皮^ひ今^{いま}さ^さら^らは^はえ^え 之^{これ} 脱^{だつ}肛^{こう}が^が尻^{しり}の^の甘^{かん}茅^{ぼう}ら^らー^へへ^へと^と
 つ^つい^いえ^え 其^{その}こ^この^の中^{ちゆう}に^し其^{その}の^の門^{もん}下^かの^の判^{はん}友^{ゆう}株^{くわ}乳^{にゅう}女^{にょ}育^{いく}の^の
 見^みん^んど^どく^くお^お負^ふ惜^{しやく}米^{まい}叔^{しやく}宗^{そう}通^{つう} 此^{この}の^の寺^じ屋^や町^{ちゆう}の^の河^か六^{りく}で^では^は
 こ^こう^う 子^この^のち^ちろ^ろ指^{さし}負^ふと^とり^りの^のい^いま^まと^とと^と為^なす^すた^たと^とい^いふ^ふ者^{もの}も^もえ^え
 ま^ませ^せん^んと^と押^おさ^さり^りま^ました^{した}。不^ふ具^ぐか^かと^とで^では^はづ^づれ^れと^とい^いふ^ふ。
 ま^まの^の懐^{わい}か^かが^がう^うと^とい^いふ^ふに^にい^いふ^ふ。何^{なん}れ^れも^もこ^この^のお^おと^とい^いふ^ふ。
 こ^これ^れと^とい^いふ^ふ。な^なて^て居^いる^るう^うら^らい^いひ^ひと^とい^いふ^ふう^うら^らい^いひ^ひと^とい^いふ^ふ。先^{せん}

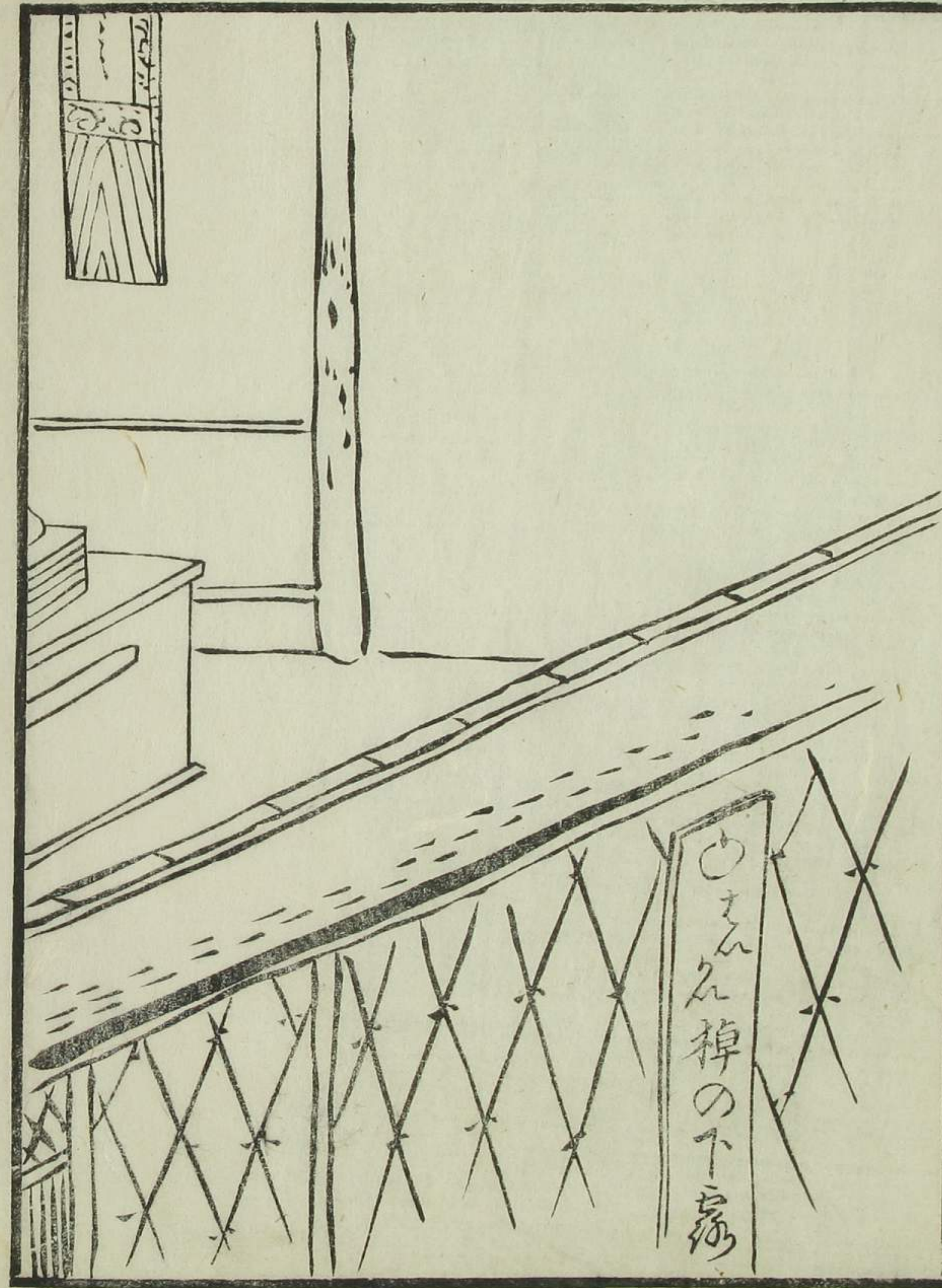
ね子とへうろぎ引舟や禿とねとらしてねの
 めである。いかぢせどりとも。否なの作わざと仲なな妹いもうと。い
 ちとろく横よことろく又ある説いは異いな達うふ
 とろともてねりぬ意いのうて海うみ中なかつとなり
 するとも。二流ふたよりまた。メケの祕ひ傳でんれ七しちの嫁よめ入いれ
 のとアなういこと。寂寞ひそけの放はな免めんの附つとろなど。金かねく
 方便へんべんの附つりめをさむ状よう。凡つらの髪かみのと入いれて方かた星せい之
 りやうのことども。ひうとほまねめでもどおどお

ならば愚老が所の凶業とも。執回とも。なるべし。
 侍へずとてむ。野入て納地も。取れさせう。さうと
 で。ひたす。さう。い。蟹。せ。で。こ。り。ま。す。こ。と。い。い。あ。
 出。さ。か。と。摸。の。の。ま。り。よう。う。い。い。と。あ。り。か。せ。
 と。お。致。の。と。て。か。い。時。候。の。換。取。が。済。と。連。中。一。り。
 の。懐。抱。と。の。極。家。通。け。男。の。ま。た。り。む。ぐ。い。と。植。
 物。の。越。と。い。嫌。か。ね。い。い。や。被。と。依。で。さ。り。ま。す。
 同。む。ら。と。バ。社。大。の。と。と。い。わ。あ。と。玉。ぐ。い。と。い。

谷^こ河^がの^のもやせよ。いま^{いま}か^かい^いあるよ。あの^{あの}海^{うみ}ど^どう^うで^で。
あ^あ煙^{えん}も^もあ^あ玉^{たま}の^のも^もぶ^ぶが。白^{しろ}う^うと^と玉^{たま}と^と炊^かく^く格^{かく}よ
と^とあ^あり^りや^や玉^{たま}炊^か石^{いし}と^とい^いや^やめ^めで^でさ^さる^るとい^いぶ^ぶう^うあ^あを^を
根^ね台^{だい}者^{もの}よ^よあ^あ。か^かに^によ^よい^いの^の藤^{ふじ}よう^{よう}い^いと^とる^る玉^{たま}り^り
い^いと^とあ^あで^でえ^えす^すと^とる。法^{はふ}卓^{たく}見^{けん}とい^いふ^ふか^かと^とお^お違^{ちが}う^うと
な^なす^すに^にとい^いふ^ふだ。サ^サア^アと^とい^いが^が一^{いち}子^こ相^{あい}傳^{でん}の^の場^ば。と^とい^いふ^ふ
い^いと^とい^いぐ^ぐと^とい^いん^んと^とい^いふ^ふに^にす^すり^り。あ^あど^どう^うく^く張^はー^ーて
居^いる^るわ^わが^が。え^え来^き玉^{たま}う^うー^ーい^いと^とい^いふ^ふぞ^ぞん^んの^の事^{こと}で^でさ^さる。

猪名いのなのあつらふや。ゆこのきぬとせうらつと。
 らやあつら付き人ひとなりふら山さん上うへすいれ
 漢かん職しやくのやうな懐紙くわいしや短冊たんさくの裏名うらなの肩かたといせい
 け沸直わいていきなり書かきあへて。此人このひと性しやうあ性せい氏しも
 紀きの坂さかのよなどまてあつらふと思おもふ先まづ。いふ女を
 ちよりまゝあつらふであつらふ。平ひら妓ぎでござり
 と。着きるもの裾すそをひすつぎとみどりくはやく
 ーとふらうげ。とのやうにふくえを。お髪かみ

わがりのよ代番よばんの各代かくだいよりあ付あひ付けりづの
 考かうよりつり。知しる人ひとはあひ一時ひととき。穉ち後ごとるよと
 象ぞうのよふまじふらう。握にぎりやうとあつらふ。最さい暑じよ
 の切きりら漢語かんごあり。夏なつ出入でいりの寂道さむぢどうを履はきつと
 よし悪わる口のよあやせんとなひ忘わすれえり。はが
 の下男したうよりていつてゐるな。不便ふべんもあつ
 むすむる男おとこの項かたの毛けよりとりよする。大印だいいん櫛し
 渡わたりぎのよは物ものを育うのつぎと代かへて。



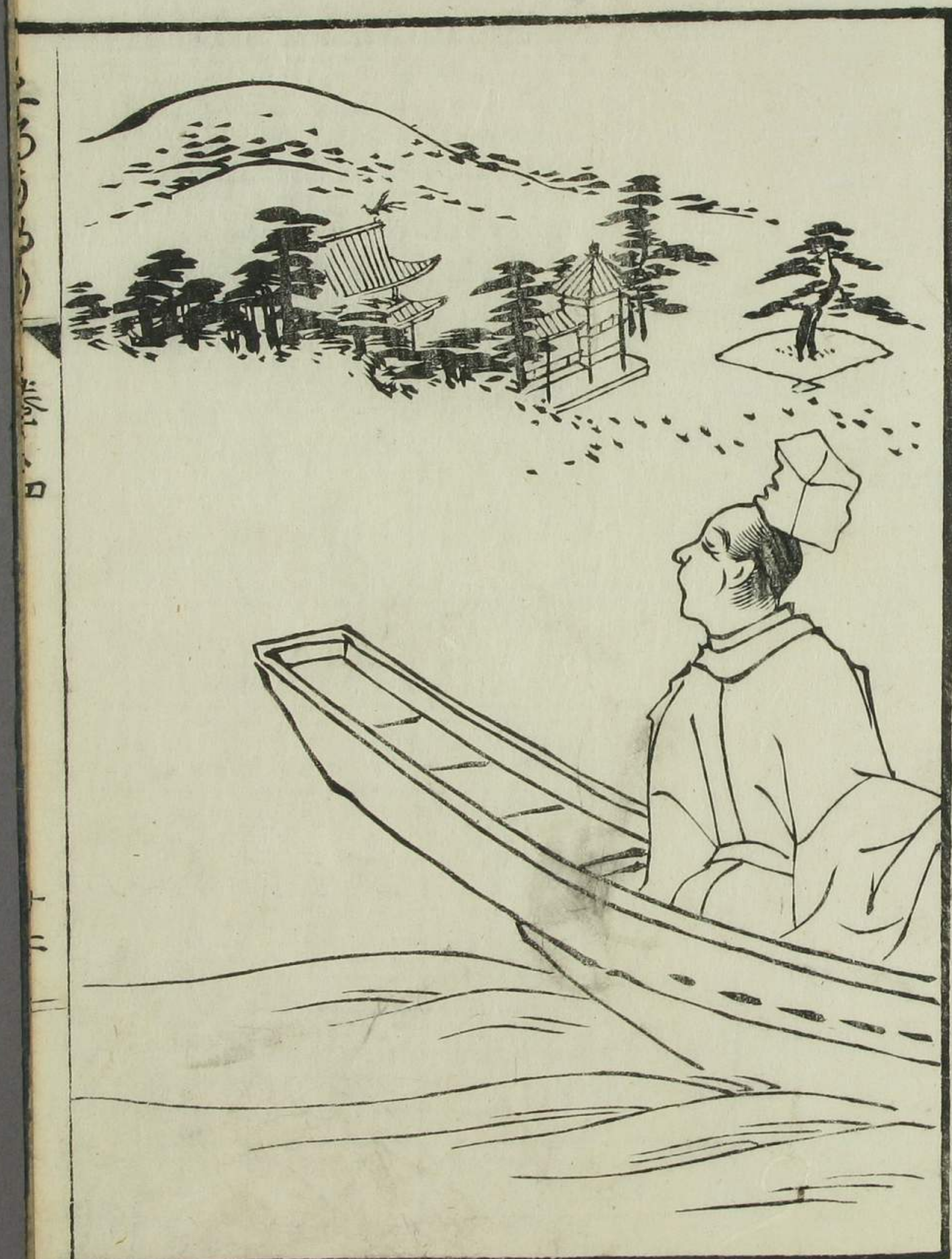
おまん
と
棹の下
家

五

津

う村へ遠くまでお結むす買かんとしつゝはしつゝと
滞ひまがすしつゝとさしつゝ梅うめの文ぶんれ練れんまのれ花はな人
のうちと海うみ邊へのす縁えんなつてむしとささかぢと
つゝ八はち崎さきのうをひかとり出でる。さびしつゝとささかぢ
付つき。にのしつゝお梅おめいうけが欠かきつゝ。夕ゆふ顔がほの文ぶん素そ
あそりうもささかぢに小こあぢちなる横よこ町まちより。たそ
うきよらよきとありし。ささかぢ出でる。小こ紋もんねと
あむとあむははのしつゝ。何なんせんあやのさるた

と梅うめりとはく。ささかぢあさるたぢのうらりて下げ府ふ
やめれたささかぢ。黄昏たそがれは花はな街がはとと梅うめりしつゝ。い
然しかした男おとこのりあぢとささかぢ。ささかぢ居ゐるが
加か賀が深ふかのらもうばりし。浴ゆ衣い着きたるが。下した紙し襖ふすま
襖ふすまはささかぢにぞ肝かんにささかぢ。新あらた夜よの報あや
思おもひ来きとささかぢ。夜よの脇わきの下したより。夜よの袖そで
のたりし。ささかぢ。ささかぢ。源げん老らうのさ
ははに。机つくのささかぢ。返へん屋やささかぢ。軍ぐん書しよよんが



卷四
十三
老の来り。知らぬ人々是の何グーの代ではせ
るまじが。中へは夢あるれす。いふ人。是の
あふが。いふ。す。いふ。が。あ。い。け。は。が。あ。が。で。た
す。い。た。る。を。あ。ち。に。た。か。が。も。あ。い。は。は。の。ま
さ。ご。も。う。と。は。さ。さ。ふ。と。う。と。う。た。あ。る。と。う。の
十月中拂に。門には書付と。いふ。と。い。と。と。見。に
無中仕切馬。と。神人ごうに。その字の長が付てを
い。も。お。し。は。あ。い。そ。は。り。と。ふ。と。う。と。う。で。い。

不孝とのでも。客まで。津法とををひき。て。又
う。と。ゆ。と。と。な。や。一。右。よ。て。敦。あ。り。梓。巫。の。様
か。あ。る。も。そ。茶。漬。を。た。た。み。び。人。の。の。ま。う。と
よ。う。治。へ。能。く。と。見。に。ゆ。ん。と。え。と。う。の。と。あ。う。の
用。に。あ。る。紙。と。い。は。物。は。た。か。か。う。な。と。な。ま
で。て。あ。る。一。並。何。と。の。が。来。て。も。風。の。出。合。あ。ら
べ。と。り。と。う。と。後。と。て。た。か。と。う。く。字。治。は。た。と。を。は。れ
か。た。に。は。る。の。かり。ゆ。多。う。あ。ら。た。と。の。ま。う。と。

あがり川^{かみ} 添^そふだ枝^えまきとてはもうらうなぶ川
のもと。まろく。小舟^{こふね}のときどきいとぬがたり。
用^{もち}ふかへんとのさうひり。わくら頼政^{よりまさ}のゆききも
やとまろふかきまそ。いんぞら古^こ歌^{うた}のやりとほ
ふ。よろくの根^ね同^{どう}葉^はとい。渾^{みづか}父^{ちち}あつとて
あむさたきま。唇^{くちびる}首^{くび}いとへん

うらうらりあそびに終

